

令和6年度 山口市医師会女性医師部会総会 記念講演会 印象記

『性虐待・性被害が疑われる子どもへの対応・心構え・そしてコミュニケーション』

講師：NPO法人「子供の虐待防止ネット・にいがた」 代表 草間真由美

佐々木映子

令和6年7月6日(土)18時半より市医師会大講堂において現地参加15名、ZOOM参加5名で開催されました。

子どもへの虐待、とくに性虐待については被害者が口に出して訴えられないことがほとんどであるなか、通告義務者である私たち医療関係者が気づくヒントや子どもたちからのサインについてわかりやすくお話いただきました。また後半には子育てに悩む親への支援活動についてお話いただきました。

I 性虐待、性被害を疑う

性的虐待の定義（児童虐待の防止に関する法律第2条）

「性的虐待とは保護者がその監護する児童に対し、わいせつな行為をすること、または児童をして、わいせつな行為をさせること」

→性被害は保護者からだけではないため、全体を性虐待と呼ぶ。

子どもの頃に性虐待を受けている人は 女児：4～5人に1人 男児：10人に1人

性虐待に含まれる行為

- ・子どもを年齢不相応に性的刺激にさらすこと
- ・挿入を伴わない性的接触
- ・挿入（性器や肛門に加害者の性器や指、物などを挿入されること、口腔に性器を挿入されること、子どもの性器を加害者の性器や肛門に挿入させられること、加害者に性器や肛門に何かを挿入させられること）
- ・性的に搾取すること

被害を受けていても、身体所見に異常が認められるのは統計的に4%しかない。なぜなら子どもが被害について開示するのは時間が経ってからのことが多いため、診察時には回復していることも少なくないからである。なぜ子どもがどのように虐待に反応するかを

知っていることが大事なのか？

→以下の点を理解するための助けとなるから

- ・子どもが経験していること
- ・打ち明けるのを妨げる可能性のあること(ブロック)

子どもはどのように反応するか

- ・秘密を守り続け、打ち明けるのが遅れる。
- ・無力感、パワレスであることを感じる
- ・出口がない感じがしている。かけられた罫にはまりどこにも逃れられないと感じる
- ・その状態に適応する。行動や考え方を順応させていく
- ・裏切られたと感じる
- ・スティグマ（烙印を押されているかのよう）を感じる。
- ・性的発達の歪み

虐待の可能性を示すサイン

- ・夜になるのを怖がる
- ・自傷行為。人の性器を触ろうとする。
- ・性器への関心が異常に強い。年齢不相応な性的知識、言動
- ・性器周辺の腫れ、出血、あざ、性器・肛門裂傷
- ・下腹部の痛み、排泄時の痛み、咽頭部の痛み、かいら

懸念される行動

- ・性器や胸に口を押し付ける
- ・性的な行為をしようとする他の人を誘う
- ・物を膣や肛門へ挿入する
- ・性的な行為を人形やおもちゃで真似する
- ・性交の真似をする

性虐待の見つかり方

- ・子ども自身の告白(開示)によって発覚する場合と偶然に発見される場合がある。
- ・幼少期は性虐待環境に順応していてそれが異常であることを知らないことが多いため、自発的な開示による発覚は思春期以降の子どもに多い。

子どもが打ち明けるとき

- ・偶然 74%は偶然発見される。
主に幼い子供が多い。
- ・意図的 25%は意図的に開示。
より年長の子どもに多い。

どのように打ち明けらるか

- ・否認
- ・ためらいがち
- ・積極的
- ・撤回 → やっぱり違う、と言う
- ・再度肯定 → 撤回すると、嘘つきと思われ
そうだから

性虐待を打ち明けられた時の応じ方

- ・話を信じる
- ・話してくれてありがとう
- ・あなたは悪くない

RIFCR (リフカー) を使った聴き取り

～子どもの性虐待の理解と初期対応～

RIFCR : R=Rapport I=Issue Identification
F=Facts: Who did What? のみ C=Closure
R=Reporting) (RIFCR™は、Corner House
の登録商標)

<特徴>

- ・通告に迷ったときに適切に話を聴きとることができ通告に繋ぐことができる。
- ・性被害、性虐待に関する理解が深まり、適切な対応を知ることができる。
- ・すべての虐待、DVの目撃、犯罪の目撃などにも使える
- ・困っている子どもに話す機会を与えることができる。

子どもからの話の聴き方

- ・「誰」と「何」を聴く
- ・子どもの言ったことを信じる
- ・子どもの言葉(表現)を使う: 語彙の少ない子どもの表現は「そのまま」ではない
- ・淡々と聴く: 過剰な反応をしない

RIFCR を使った聴き取り (通告義務者向け)

において してはいけないこと

- ・その場で根掘り葉掘り聴く→詳しいことは司法面接が聴くので聴きすぎない
- ・虐待の真偽を確かめる質問をする→子供は「信じてもらえなかった」と感じてしまう
- ・子どもに、もう一度他の大人に話をしてもらう

- ・虐待の加害者かもしれない人物に、子どもの話した内容を明かしてしまうこと
- ・虐待の加害者だと思われる人物に、虐待したのかしなかったのか確認すること

II 親支援講座について

子供との接し方がわからないと悩む親は多いが、そんな親を支援する取り組みの紹介

(1) Nobody's Perfect Program (NP講座)

カナダ生まれのプログラムで体験学習サイクル利用の参加型講座

同じ年齢の子どもを持ち、共通の悩みや関心を持つ人々と出会い、孤立感が軽減し、自信を持てる、自分に合った子育て方法を学ぶ母子分離で行う。1回2時間5～7週連続。3～5歳の子どもを持つ保護者で実施することが多い。

→ 回を重ねるごとに孤立感から解き放たれ参加者が生き生きとしてくる。

またグループ自体が育っていく

(2) CCAP版親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム

CCAP (社団法人子どもの虐待防止センター) の電話相談員が、子育てに悩む多くの親御さんの声を聴き、実際に親御さんとの施行実施を重ねながら完成したペアレンティングプログラム

- ・子ども本来の特性を知ること・脳科学の視点・心理教育・ロールプレイあり
- 1回2時間 2週間ごとの6回講座。概ね3歳～小学生(0歳～上限なし)

親支援プログラムに参加するママはどういう人たち?

- ・子どもを見ているとイライラ。怒って怒鳴って謝って、を繰り返す。子どもが言うことをきかない。子どもの要求にどこまで応えればいいのかわからない。
- ・手を出さなくてもいうことを聞いてくれるにはどうしたらいい?
- ・幼いときに受けていた母親からの怒り方を我が子にしてしまう。自分は親に甘えられず辛かった。親に虐待されていた時の年齢に自分の子どもが近づく。
- ・子どもとの関わり方を変えたい。子どもとの接し方、愛情表現がわからない。

受講者たちの感想

・子どもともっと仲良くなりたいと思い、コミュニケーションを取っているうちに、子どもから「ママ大好き」「ママと結婚したい」と言われるようになった。

私の何が変わったのだろうか。

・コミュニケーションの取り方で、子どもとの関係性がすごく変わってきていると実感

草間真由美さんは東京出身の臨床検査技師で、私の大学時代の同級生 草間昭夫先生（現 長岡市医師会長）の奥様です。普段は診療所の事務長としてご主人の診療をサポートしながら、おや？と思った時には別室でお話を聴いたりすることもあったそうです。

今回は重いテーマでしたが、草間さんの人を救いたいという熱い気持ちとテンポの良いサバサバした語り口のおかげで、聴講後は心が温かくなりました。

子どもの頃に性虐待を受けている人は 女児：4～5人に1人 男児：10人に1人とのことで想像以上に多く驚きました。保護者による性的虐待は、性欲というよりも支配欲の現れであるとのことでした。

性被害を受けた人の心の傷は何年も残り、ときに数十年を経て突然フラッシュバックし被害者を苦しめ続けます。日常診療の中でも、私たちは被害者のサインを受け止めなくてはならないと痛感しました。またこんなにSNSが発達

し、一見人と人のつながりが多くなった時代に思えても、子育ては孤独な作業であり、悩み苦しんでいる親たちがたくさんいることも知りました。そんな親たちを支援することは将来の虐待を予防することにもつながると思います。個人的にはRIFCRの手法についてもっと知りたいと思いました。

草間真由美 先生 プロフィール

◆略 歴

東京都出身。臨床検査技師として勤務。結婚後、夫の実家の医院の継承に伴い平成5年から長岡市在住。平成14年PTA役員をしていた仲間たちと、任意団体「子どもの虐待防止ネット」立ち上げ。平成17年「NPO法人子どもの虐待防止ネット・にいがた」を設立。

◆資格関係等

- ・Nobody's Perfect(NP)CCC認定ファシリテーター
- ・CCAP（子どもの虐待防止センター）版親と子の関係を育てるペアレンティングプログラムファシリテーター
- ・Child First Japan RIFCR研修認定トレーナー（性虐待初期対応）
- ・Child First Japan 司法面接士
- ・乳幼児揺さぶられ症候群予防教育トレーナー



令和6年度 山口市医師会女性医師部会総会報告

竹本 成子

令和6年7月6日(土)18:00より令和6年度山口市医師会女性医師部会総会が山口市医師会中会議室にて開催された。会員53名中、参加者は11名、委任状提出者は19名であった。

まず、國近尚美部会長から開会の挨拶があり、以下の議案について協議がなされた。

◇議案1. 令和5年度事業報告

- 1) 第1回役員会 令和5年4月13日(木)山口市医師会小会議室にて
- 2) 総会 令和5年7月8日(土) 山口市医師会大会議室にて
参加者26名(うちZoom参加者13名)
講演「在宅における呼吸ケア・リハビリテーション～Another storyを伴走する～」
講師 神奈川県川崎市
「いきいきクリニック」
理事長・院長 武知由佳子 先生
- 3) 第2回役員会 令和5年11月15日(木)山口市医師会小会議室にて
- 4) 山口・吉南女性医師部会合同研修会 令和6年2月10日(土)山口市医師会大会議室
参加者18名(うち吉南医師会から4名参加)(うちZoom参加者4名)
講演「発酵について“日本酒を学習して嗜む”」
講師 やまぐち発酵文化研究所
代表 柏木 亨 先生
- 5) 男女共同参画部会総会・講演会への参加
令和6年3月3日(日) 山口県医師会
- 6) 第3回役員会 令和6年3月14日(木)山口市医師会小会議室にて

◇議案2. 令和5年度決算報告及び会計監査報告

収入の部

会費(1,000円×45名)	45,000
出席者負担金	112,869
助成金(市医200,000 県医100,000)	300,000
預金利息	2
繰越金	386,840
収入合計	844,711

支出の部

総会費	264,734
研修会費	202,031
役員会費	9,655
慶弔費	0
雑費	0
予備費	0
支出合計	476,420
差引(次年度繰越金)	368,291

以上の事業報告、決算報告ののち会計監査報告がなされ、すべて承認された。

◇議案3. 令和6年度事業計画(案)

- 1) 役員会 以下の2)～4)について企画、検討するために年に2～3回開催予定
- 2) 総会・講演会
総会：令和6年7月6日18:00～
山口市医師会中会議室&大会議室
(会場参加とZOOM参加を併用した、ハイブリッド方式での開催)
講演：「性被害を疑われる場合の対応・心構え・そしてコミュニケーション」
講師：NPO法人 子供の虐待防止ネット・にいがた 代表 草間真由美 先生
- 3) 山口・吉南女性医師部会合同研修会
令和7年1～2月頃 開催予定
- 4) その他
① 男女共同参画・女性医師部会連携会議

への参加

- ② 山口県医師会男女共同参画部会総会
(令和7年3月2日(日))への参加
- ③ その他 本会の一般会員と病院勤務医師との意見交換会などの開催を検討

◇議案4. 令和6年度予算(案)

収入の部

会費(1,000円×53名)	53,000
負担金	140,000
助成金(市医200,000 県医100,000)	300,000
預金利息	3
前年度繰越金	368,291
<u>収入合計</u>	<u>861,294</u>

支出の部(円)

総会費	430,000
研修会費	210,000
役員会費	9,000
慶弔費	30,000
雑費	30,000
予備費	152,294
<u>支出合計</u>	<u>861,294</u>

以上の事業計画と予算案が提案され、すべて承認された。

最後に、竹本成子副部会長から閉会の挨拶があり、総会を終了した。

